

平成 29 年度国際理解教育セミナー（香川）
～共に生きる力を育み、よりよい未来を築くための参加型プログラムの進め方～

- 日時：2018年2月18日（日）9：45～16：00
- 場所：アイパル香川（香川国際交流会館）3階 第4、5、6会議室
- 参加者：36名
- 実施内容（詳細）：
ワークショップ 第一部 参加型プログラムを体験しよう
●講師：伴 和子氏（NIED・国際理解教育センター研究員）

まず初めに国際理解教育やファシリテーターについて簡単な説明がありました。その後、参加者の緊張をほぐし、お互いの事を良く知るためにアイスブレイクを行ったためどのアクティビティも活発な意見が出されていました。参加型のプログラムを幾つか行うことで、参加型プログラムを進めるための手法やファシリテーションのポイントなどを実際に体験して学ぶことができました。

午後のプログラムでは参加者が実際に参加型のアクティビティをファシリテートしていくため、各グループがどのように進めれば良いか話し合いました。



<アイスブレイク>

<グループワーク>

ワークショップ 第二部

午前部の後半に進めてきた準備を基に、各グループが参加型アクティビティを実際にファシリテートしました。ファシリテート担当以外のグループは、参加者としてアクティビティを体験するとともに、ファシリテートしたグループの良いところや改善点を記入していきました。ファシリテートするプログラムは「私のお気に入り」という和気藹々と話が出る内容のものから「死刑制度」という一見話し合いが難しく見えるものが含まれていましたが、各グループ午前部の部で体験した手法を取り入れながら、上手く実施することが出来ました。全てのグループのファシリテーションが終了し、改めてファシリテーターのポイントについて考えました。



<ファシリテーション実践②>

<ファシリテーションのポイント>

2017年度 JICA 四国教師海外研修パラグアイ 研修報告&実践授業紹介

●発表者：福家 慎一 教諭（高松市立川島小学校）

民族衣装を身にまとい、パラグアイでの海外研修と帰国後の実践授業紹介をパワーポイント用いて発表して頂きました。冒頭にて、所属している小学校で実際に行ったパラグアイクイズを実施し、パラグアイの文化や訪問地を紹介することで聴講者の興味が高まりました。

実践授業は、訪問したカテウラ地域やホームステイ先の家族、日系移住地での出会いなどから「生き方」「幸せとは」という切り口で行った授業の紹介がされ、海外研修中に作成した映像教材や日本とパラグアイをつなぐ生ビデオ通話等、福家教諭の熱意と工夫の詰まった授業に聴講者も惹きつけられていました。



<福家教諭登場>

<パラグアイクイズ>

アンケート抜粋

- ・ワークショップを通じてファシリテーターとしての技能を知ることができた。
- ・様々なファシリテーションやアクティビティが実践でき大変参考になった。色々な人と話せたのも大きい。
- ・普段から問題意識がないといけないと思った。
- ・短時間で密度の濃い実践報告ですばらしかった。もっと長くお話を聴きたかった。
- ・日本でも国際化に向けて子どもたちに様々な取り組みをする必要があると思った。